

2019年度 事業報告書

2019年度における重要無形文化財人形浄瑠璃文楽の伝承及び普及事業等の実施にあたっては、文化庁、大阪府並びに独立行政法人日本芸術文化振興会（国立文楽劇場）等の関係諸団体との連携・協力をさらに密接にしながら、公演事業への取り組み強化、伝承事業の充実に努めた。

中でも、大阪（国立文楽劇場）・東京（国立劇場）での本公演を始め、協会の自主公演である地方公演及びその他の特別公演等の実施にあたっては、これまでの実績を活かし、より充実した公演活動を行った。さらに、文楽の普及啓発と国立文楽劇場への誘客を図るための試みとして、本年度も前年度に引き続き文楽に馴染みの少ない人達に文楽を知り親しんでもらうため、解説を中心に体験や短時間公演で構成する普及啓発事業を実施するとともに、若者に特化した事業としてワンコインで文楽をスタートした。

運営面では、協会の財政基盤強化のための取り組みとして「公益財団法人文楽協会賛助会員制度」を導入した。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2月末から3月に予定していた地方公演、特別公演等（公演日数17日、公演数33回）が残念ながらすべて中止となった。

1. 公演事業

(1) 本公演（国立文楽劇場、国立劇場主催）

国立文楽劇場及び国立劇場主催の本公演は、大阪・東京を併せて136日（306回）であった。

（ ）内は、前年度実績

公 演 地	期 間	日数・公演数	観 客 数
大 阪 (国立文楽劇場)	4/6～29	23日 46回	22,075人
	7/20～8/5	17日 51回	24,661人
	11/2～11/24	22日 44回	25,263人
	(2020) 1/3～26	23日 46回	19,991人
計		85日 187回 (85日 188回)	91,990人 (80,685人)

東京 (国立劇場)	5/11～27	17日 34回	17,592人
	9/7～23	17日 34回	17,096人
	(2020) 2/8～24	17日 51回	21,471人
計		51日 119回 (51日 119回)	56,159人 (54,586人)
合計		136日 306回 (136日 307回)	148,149人 (135,271人)

(2) 地方公演 (文楽協会主催)

地方公演は、本公演がない秋季及び春季に全国各地を巡演し、各地の文楽愛好家の期待に応えるとともに、新規顧客の開拓に取り組む事業だが、2019年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、春季全公演が中止となり、秋季の9日18回公演のみを行った。

() 内は、前年度実績

公演地	期間	日数・公演数	観客数
中国・東海 関東・北陸 東北・北海道	10/2～10/17	9日 18回 (11日 22回)	7,602人 (8,739人)
【中止】 近畿・九州 関東・東海	(2020) 3/6～3/21	9日 17回 (14日 27回)	0人 (10,615人)
合計		9日 18回 (25日 49回)	7,602人 (19,354人)

(3) 青少年を対象とした公演 (国立文楽劇場・国立劇場主催)

青少年を対象とした公演は、国立文楽劇場及び国立劇場主催の「文楽鑑賞教室」を大阪 (14日 28回)・東京 (13日 25回) で実施したほか、同じく国立文楽劇場及び国立劇場主催による若手技芸員を中心とした「若手公演」を大阪 (2日 2回)・東京 (15日 15回) で実施した。

①文楽鑑賞教室（国立文楽劇場・国立劇場主催）

（ ）内は、前年度実績

公演地	期間	日数・公演数	観客数
大阪 (国立文楽劇場)	6/7～20	14日 28回	16,811人
東京 (国立劇場)	12/3～15	13日 25回	13,517人
合計		27日 53回 (26日 50回)	30,328人 (30,355人)

②若手公演（国立文楽劇場・国立劇場主催）

（ ）内は、前年度実績

公演地	期間	日数・公演数	観客数
大阪 (国立文楽劇場)	6/22～23	2日 2回	1,329人
東京 (国立劇場)	6/28～29	2日 2回	1,084人
東京 (国立劇場)	12/3～15	13日 13回	6,764人
合計		17日 17回 (17日 17回)	9,177人 (9,527人)

(4) 特別公演事業

国際交流基金が10月にアメリカ・ニューヨークで開催した「Japan2019」に「杉本文楽」として参加した他、インテックス大阪で開催された「ツーリズム EXPO ジャパン 2019」に参加するなど海外に向けた活動を行った。また、「ギオンコーナー」(京都市)をはじめ、内子座文楽第23回公演(愛媛県)など、国内でも多種多様な公演を実施した。

なお、3月に予定されていた特別公演事業(3公演14回)についても、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。

・ 主な特別公演事業

() 内は、前年度実績

公 演 名	期 間	日数・公演数	観 客 数
京都 ギオンコーナー	4/1～ (2020) 3/31	279 日 (267 日)	72,406 人 (78,251 人)
内子座文楽 第 23 回公演	8/24～25	2 日 4 回	1,441 人 (1,500 人)
ムムム!!文楽① 中之島文楽	10/4～5	2 日 2 回 (3 日 3 回)	1,115 人 (1,190 人)
Japan2019 杉本文楽 (アメリカ)	10/19～22	4 日 4 回	3,992 人
ムムム!!文楽② ツーリズムエキスポ	10/25～27	3 日 4 回	40,000 人
日経文楽の夕べ	11/27	1 日 1 回	1,000 人
【中止】 ヴィアール大阪 はじめての文楽	3/1	1 日 2 回	0 人
【中止】 ムムム!!文楽② ツイン 21	3/5～6	2 日 2 回	0 人
【中止】 にっぽん文楽 in 万博記念公園	3/21～24	4 日 10 回	0 人

2. 伝承事業

2019年度の契約技芸員数及び内訳は、次のとおりである。

契約技芸員数	太夫	三味線	人形
84名	20名	21名	43名

技芸の伝承・向上を目的として、師匠・弟子間の研修・指導に重点をおいた取り組みを推進するとともに、技芸員の舞台活動を支援するために必要な着付、黒衣、三味線等の購入等に際し助成を行った。

また当協会・国立文楽劇場が連携して若手技芸員による自発的な勉強会の開催に対して積極的な協力・助成を行った。

さらに、真摯な舞台を務め、技芸の向上が著しい若手技芸員に対し文楽協会賞を贈った。

(1) 若手技芸員発表会

8月6日 蝠聚会（国立文楽劇場小ホール）

(2) 文楽協会賞表彰

3名 （豊竹靖太夫、鶴澤燕二郎、吉田玉路）

3. 後継者育成事業

文楽の技芸員を目指して独立行政法人日本芸術文化振興会の文楽研修生として2年間の研修を受ける者に対して、助成を行った。

・研修生養成費（2名 120万円）を貸与

また、文楽協会の研究生4名（太夫2名、三味線2名）に対し、支援費として毎月一人5,000円の支給を行った。

・研究生 太夫（2名 12万円）

三味線（2名の内1名は2019年4~10月まで研究生、11月から技芸員）9万5千円

さらに上記三味線で研究生から技芸員となった者に「文楽技芸員後継者に対する奨励金」を支給した（45万円）。

4. 普及啓発事業

(1) ミニ公演事業等

これまで文楽に馴染みの少なかった人達に、文楽を知ってもらい親しんでもらうため、大阪府内における認知度向上と国立文楽劇場への観客動員増加を目的とした普及啓発事業として、三業の役割解説と短時間の演目を組み合わせた公演を実施し

た。なお、2月27日に予定されていたフェニーチェ堺での公演は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。

・ミニ公演事業

実施場所	公演日	観客数
向陽台高等学校（茨木市）	7/11	330人
エル・おおさか（大阪市北区）	12/20	887人
道頓堀・戎舞台（大阪市中央区）	(2020)1/10	約500人
【中止】フェニーチェ堺（堺市堺区）	(2020)2/27	0人

(2) ワンコインで文楽

公益財団法人関西・大阪21世紀協会が運営するアーツサポート関西・文楽支援基金の助成を受け、若い人（18歳以上30歳未満、関西在勤・在学・在住）への普及啓発事業「ワンコインで文楽2019」を実施した。

公演	申込人数
7/30～8/4	108人
11/8～23	287人
(2020)1/11～24	207人
合計	602人

5. 運営

(1) 評議員会の開催（6月3日）

決議事項：平成30年度事業報告について

平成30年度決算について

任期満了による理事の選任について

任期満了による監事の選任について

評議員の選任について

報告事項：賛助会員制度の今後の進め方

(2) 理事会

・第1回理事会 5月17日

決議事項：平成 30 年度事業報告について

平成 30 年度決算について

評議員会の招集について

内閣府への定期提出書類について

報告事項：尾崎理事長職務執行状況について

賛助会員制度の今後の進め方について

・第 2 回理事会 3 月 16 日

決議事項：2020 年度事業計画について

2020 年度収支予算について

文楽基金の一部取り崩しについて

2020 年度国庫補助事業実施決議について

運営資金の短期借入れ並びに担保の提供について

文楽技芸員後継者（研究生）に対する奨励金の支給について

報告事項：岸本忠三文楽支援基金取崩し見込み額について

尾崎理事長職務執行状況について

公益財団法人文楽協会賛助会員の入会依頼活動状況について

新型コロナウイルスの影響について

(3) 賛助会員制度の実施

文楽協会の安定した財政運営の一助となるよう、当会の事業趣旨に賛同いただく個人、法人から幅広く支援を募る「公益財団法人文楽協会賛助会員制度」を 4 月に設置した。2020 年 3 月末現在、個人会員のべ 344 人（592 口）、法人会員 8 社（163 口）。

【 附属明細書 】

事業報告書に詳細まで記載しているため、記載する事項はありません。